






聖書	第一サムエル24章、26：1-12
タイトル	神様にさばきをゆだねたダビデ
教案日付	2015年 6月14日

項目	イラスト	お話し
I	a 	サウルに命を狙われたダビデは、仲間と共に逃亡生活をおくっていました。あるとき、ダビデの居所を知ったサウルは、3000人もの兵隊を連れて追ってきました。そこでダビデは、サウルから逃れてほら穴に隠れていました。
	b 	するとそこへ、トイレに行きたくなったサウルが入ってきたではありませんか！サウルはダビデたちに気がついていません。ダビデの部下は「今こそサウルに復讐するときです。神様がこのチャンスをくださったのです！」と言いました。
	c 	でも、ダビデは復讐しませんでした。「サウルは、神様が選ばれた王様です。彼に仕返しをすることは神様に逆らうことになります。そんなことは絶対にできません。」と言って、サウルの上着のすそをこっそり切り取っただけでした。サウルは何も知らずに、ほら穴から出ていきました。
II	a 	この後ダビデは、サウルのうしろから「王様！」と声をかけました。そして地にひれ伏して礼をし、言いました。「王様、実は先ほど、あなたがほら穴におられた時、私もそこにいたのです。部下はあなたを殺せと言いましたが、私は『神様が選ばれた方にそのようなことをしてはならない』と命じました。ご覧ください。代わりにあなたの上着のすそを切り取りました。私は全くあなたに危害を加えるつもりはありません。」
	b 	これを聞いてサウルは、「あなたは私より正しい。私はあなたに悪いことをした。それなのに、私に仕返しをしなかったとは…。あなたには悪い思いがないことがはっきりわかった。」と言いました。そしてそれだけでなく、ダビデが王様になるとまで言ったのです。その後、ふたりはそれぞれ帰っていきました。

項目	イラスト	お話し
II	c	
III	a	しかしサウルはまた、ダビデを殺すために強い兵隊を3000人も集めたのです。
	b	そこでダビデは、サウルの陣地をつきとめ、ある晩、サウルの寝ているテントにしらびこみました。サウルの枕元には、槍が地面に突き刺してありました。一緒にいた仲間は、その槍でサウルを殺すと言いましたが、ダビデの気持は、ほら穴の時と同じでした。「殺してはいけません。神様が選ばれた方に手を下して、誰が無罪でいられるでしょう。神様が正しくサウルを裁き、必要なら復讐してください。でも私たちが復讐してはいけません。」
	c	そこでダビデは、サウルに気づかれないように、枕元にあった槍と水差しだけを取り、立ち去ったのです。
結論 (適用)	<p style="text-align: center;">神さまにおまかせします</p> 	自分で復讐しないで、神様の手にまかせました。あなたが、人から傷つけられた時、ひどいことをされた時でも、神様は、すべてのことをご存じです。たとえその時あなたが、不公平に感じたとしても、必ず神様は、正しい人を祝福し、悪を懲らしめられます。神様の前に正しく歩みましょう。そして神様にお任せすればよいのです。むしろ、その相手を愛し、良いことでお返ししましょう。

使用方法

- 教案ガイドのイラストをプリントアウトして、裏面にお話しを記載する
- 聖書を熟読し、教案ガイドの教師ノートを参照すること